

横浜市福祉サービス第三者評価  
評価結果報告書  
ヒューマンアカデミー大倉山保育園  
平成31年4月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター



## 目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	7
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	11
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	12
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	13
評価領域Ⅵ 経営管理.....	15
利用者家族アンケート分析.....	16
利用者本人調査.....	20
事業者コメント.....	22

## ◆ 第三者評価実施概要 ◆

事業所名	ヒューマンアカデミー大倉山保育園
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター
報告書作成日	平成31年3月29日
評価に要した期間	5カ月間

### \*評価方法

1. 自己評価 【実施期間：平成30年10月19日～12月21日】
  - ・評価機関からの説明後、各自自己評価をおこない、提出。
  - ・自己評価シートを返却し、各クラスで話し合ってもらおう。
  - ・乳児クラス、幼児クラスでまとめる。
  - ・全体でクラスでまとめた内容について話し合う。
  - ・全体への理解を求め、項目でわかりにくい所は園長から説明したり、質問を受けたりする。
2. 利用者家族アンケート調査 【実施期間：平成30年11月15日～11月30日】
  - 配付：全園児の保護者（72家族）に対して、園から手渡しした。
  - 回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査 【実施日：平成31年3月7日、3月11日】
  - 第1日目
    - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
    - 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長、副主任）
  - 第2日目
    - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
    - 午 後：職員ヒアリング調査（副主任・保育士・調理職員）  
事業者面接調査（副主任）
4. 利用者本人調査 【実施日：平成31年3月7日、3月11日】
  - ・訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子等を観察。
  - ・乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間等に適宜聞き取り調査を実施。

## ◆ 総評～評価結果についての講評 ◆

### 【施設の概要】

ヒューマンアカデミー大倉山保育園は、東急東横線大倉山駅から徒歩 12 分の、周辺に神社やお寺、自然豊かな公園のある環状 2 号線に面した大型マンションの 1,2 階にあります。2014 年（平成 26 年）ヒューマンライフケア株式会社によって開設されました。

1 階には乳児クラスの保育室、ランチルーム、事務室や相談室があり、廊下奥の厨房はガラス窓になっていて、保護者や子どもたちは調理をしている姿を見ることができます。2 階はワンルームをロッカーなど棚で区切った幼児クラスの保育室と「遊び場」と呼ばれる運動や集会に使われる多目的室、エレベーター横に本やベンチのある休息コーナーがあります。3 階の屋上にあたるスペースに夏場はプールを設置しています。園内はバリアフリーになっています。

定員は 90 名（生後 57 日～就学前）で、開園時間は平日は 7 時～20 時、土曜日は 7 時～18 時半です。

保育理念は「こどもの自立の芽を育てる」と定め、保育方針を「受け止める保育・支える保育・待つ保育」とし、保育方針を「自分で決められる子ども[自主性] 違いを認められる子ども[社会性] 命をたいせつにする子ども[慈愛の心]」としています。

### 1. 高く評価できる点

#### ● 子どもたちのためのよりよい保育室の環境整備について園全体で取り組んでいます

園では、保育所保育指針の中の「幼児期に育みたい資質、能力」を考え、子どもたちが自ら環境に関わることから探求心を重んじ、「やりたい」気持ちが発揮される環境、また、基本的な生活習慣がスムーズに身につく環境について職員間で話し合いを重ね、各クラスで取り組んでいます。

乳児クラスは食事と睡眠の場所を分けてあり、おもちゃを自由に取り出し遊んだり、片付けしやすいよう棚や入れ物が工夫され、制作や遊びに集中できるよう、サークルなども使用して空間を分けています。また 1 歳児クラスはおむつ替えの場所を乳児トイレ脇に決め、スムーズに排泄に誘導しています。2 歳児クラスでは自分で紙パンツやパンツを取り出しやすく、また口拭きタオルなどの汚れ物を片付けやすいよう、3 段になっている個人ロッカーやカゴの使い方が工夫されています。各クラスの絵本は表紙が見えるような収納棚を利用しています。幼児クラスになると、木の板を工夫して並べ、ビー玉を転がす遊びやカードゲームや機織り機、縫物や編み込みの材料、箸など指先を使う物、色板など「図形」を作る物、世界の国旗、辞典など子どもたちが興味を持って取り組みたいと思える物が豊富に準備されています。子どもたちは自分でやりたいことがわかっていて、保育方針にあるように自分で決めて、自主的に興味のある物に集中して取り組んでいます。何日もかけて、辞典を目次から引いて世界各国の国旗を調べて色を塗り、挨拶の言葉も調べて国旗の横に書き、1 冊にまとめたり、毛糸で機織りをしてバッグを何個も作ったりしています。

保育士は子どもの「やりたい」思いを受け止め、子どもたちの様子を見て教材を準備したり、話し合いながら柔軟に環境を整えています。

## ● 子どもたちは身体を使ったり指先をつかったり 1日を動と静のバランスよく過ごしています

子どもたちは天気の良い日には散歩に出かけ、戸外で十分身体を動かしています。また雨の日でも、乳児はレイアウトを変えて空間を広げた部屋やランチルームで体操をしたり、巧技台やマット、縄とび、ボールなどを使って身体を動かし遊んでいます。階段を使って遊ぶこともあります。幼児は「遊び場」を使い、マットや鉄棒を使ったり、走る、ジャンプする、など発達に即した運動を取り入れたり、ダンスレッスンを受けたり、リトミックをして、しっかり身体を動かしています。また身体を動かしたあとは好きな絵本を読んだり、ワークブックをしたり、ブロックやままごと遊び、折り紙や塗り絵など、座って遊んでいます。どの子どもも身体を動かす時は思いっきり身体を使って楽しみ、話を聞いたり制作する時は集中してじっくり取り組む、動と静のメリハリを持った生活をしています。

## 2. 工夫・改善が望まれる点

### ● 研修制度の充実が望まれます

運営法人では保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っており、また職員の保育技術の向上に向けて園内研修の計画はありますが、計画どおり実施することができていません。また、非常勤職員は研修に参加できていません。

保育理念の実現のため、全職員のスキルアップに必要な研修について、改めて研修内容の見直しをすることが期待されます。また、法人主催の研修だけでなく、職員の希望に応じて外部の研修にも積極的に参加できるようにし、研修を受けたあと記録を残すことはもちろん、他の職員へも研修で得たことを伝えたり、振り返りなどを実施し、具体的に保育に活かしていくことが期待されます。

また、次世代の幹部を担う主任クラスの育成にむけての研修計画の充実が望まれます。

### ● 保育所の専門性を活かした地域子育て支援を期待します

保育士や子どもたちは散歩先で会う地域の人や消防署など地域の施設の人と挨拶を交わしたり、地域のフェスティバルに作品を提供したり、ダンスを発表する等、地域と交流をしており、また各種会議に参加して地域の子育て支援ニーズの把握に努めていますが、そのことについて職員間で話しあったり、地域住民へ情報提供や子育てに関する講習や研修会をおこなっていません。園には栄養士・看護師など専門性の高い職員がおり「給食だより」や「ほけんだより」を作成しています。そういった専門職から離乳食や乳幼児の健康についての情報提供をしたり、誕生会や英語やダンスの時間などに近隣の親子が参加できる交流保育を計画したり、保育士による手先を使った制作等の育児講座を開くなど、専門性を生かした地域支援が期待されます。

また、育児相談を開催していますが、利用者が少ないので、周知方法を工夫することが期待されます。

# ◆ 分類別評価結果 ◆



3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある

## 評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重

### 評価分類 I-1 保育方針の共通理解と全体的な計画等の作成



- (1) 保育の理念や基本方針が子ども本人を尊重したのになっており、全職員が理解し、実践しているか。
- (2) 全体的な計画は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。
- (3) 日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。

- ・保育理念は「こどもの自立の芽を育てる」保育方針は「受けとめる保育・支える保育・待つ保育」とし、保育目標を「自分で決められるこども[自主性] 違いを認められるこども[社会性] 命をたいせつにするこども[慈愛の心]」を挙げており、子ども本人を尊重したのになっています。保育理念や保育方針、保育目標は玄関や事務室、休憩室に掲示されています。園長は職員会議や日常の業務の中で保育目標について常に話し、職員が理解しているか、確認しています。
- ・全体的な計画は保育理念や保育方針、保育目標に基づき、家庭の状況や地域の実態も考慮し、子どもの発達過程に沿って、養護、教育などの項目ごとに作成され、子どもの最善の利益を第一義にしたものとなっています。全体的な計画の作成にあたっては、園長と主任保育士が作成した素案を各クラスで話し合い、会議で決定しています。保護者には、入園式や4月の保護者会などで全体的な計画を基に行われる園の取り組みや行事、1年間の子どもの成長やねらい、保育の進め方などを説明しています。
- ・全体的な計画に基づき、年齢ごとに子どもの姿、ねらい、環境構成、保育士の配慮などの項目に沿って指導計画を作成しています。日常の保育において、活動前に活動の内容や目的を子どもにわかるように具体的に説明しています。保育士は子どもの姿をよく観察して態度や表情から子どもの思いを汲み取り、言葉にして返し、子どもの意向の確認をしたり、子どもの話に耳を傾け、意見や希望を聞いています。幼児クラスで始まったお店屋さんごっこが発展してレストランになり、乳児クラスを招いて遊ぶ園全体のレストランごっこへ発展させたり、劇遊びの内容を子どもと話しながら決めるなど、子どもの意見や意思を尊重して柔軟に対応しています。

### 評価分類 I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- (1) 入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。
- (2) 新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。
- (3) 子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。
- (4) 乳児保育(0歳児)において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。
- (5) 1歳以上3歳未満児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。
- (6) 3歳以上児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。

- ・入園説明会時に、入園までの子どもの生育歴や家庭での生活の状況をヒアリングシートに記載してもらい、それを基に保護者と面接を行っています。アレルギー性疾患や離乳食の進み具合等については栄養士と一緒に面接しています。面接時に把握した新入園児の情報は、職員間で共有しています。
- ・新入園児の短縮保育(ならし保育)は、1週間をめやすにしていますが、子どもの様子や保護者の状況に合わせて、相談しながら行っています。0,1歳児の新入園児に対しては、食事や午睡の場面で担当保育者を決め安心できるよう配慮しています。子どもの心理的拠り所とする物の持ち込みができま

す。0～2 歳児クラスでは、家庭と園生活の連続性を考慮した複写式の書式の連絡ノートを用いて情報を共有し、相互の理解を深めています。進級の際にはクラス担任の一人は持ち上がるようにし、在園児に配慮しています。

- ・月間指導計画や個別指導計画などは、前月の子どもの様子を基にクラスで話し合い、発達や状況に応じて作成しています。指導計画の評価、改訂にあたっては、作成した計画を園長が確認し、助言をしています。評価・改訂にあたっては、日々のやり取りや面談などで保育に対する保護者の意見を聞き、意向を反映するようにしています。
- ・0 歳児への配慮として、保育士は、優しくゆっくりと語りかけ、情緒の安定を図りながら愛着関係を形成するとともに、一人一人の子どもの状態に応じて心地よく生活が出来るよう努めています。室内は清潔に保たれ、発達に沿った興味が満たされるよう工夫し、制作や遊びに集中できるようサークルを使って遊びや生活の場を分けるなど配慮しています。保護者とは連絡帳や日々の会話で連携を図っています。
- ・1 歳以上3歳未満児は、子ども一人一人の発達に応じた言葉かけで自分の考えを言葉で表現できるよう励まし、自分でしようとする気持ちを大切にしながら見守っています。安全に活動できるようレイアウトを工夫して、運動器具も用いて全身を使って遊べるようにしています。保育士は、子どもの自我の育ちを見守りながら友達との関わりを状況に合わせて仲立ちをするよう配慮しています。
- ・3歳児以上では、子ども自身で好きな遊びを選んだり、友達と遊びを工夫したりして楽しんでいます。子どもたちが興味を持って自分たちで好きなことがみつけれられるように各クラスは環境が整えられ、遊びが充実できるようにしています。保育所保育指針に示されている「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を意識して保育を行っています。

### 評価分類 I-3 快適な施設環境の確保



- (1) 子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。
- (2) 沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3) 子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・保健衛生マニュアルの「清掃・消毒」、清掃チェック表に基づいて清掃がされており、園内・外とも清潔に保たれています。空調設備、加湿器付空気清浄機などが設置され、適切な温・湿度、通風・換気の管理をしています。窓は大きく陽光は十分取り入れることができ、カーテンを用いて調整をしています。今後はワンフロアになっている保育室では、体操など音楽を使うデイリープログラムの立て方、音楽のボリューム、保育士の声、子どもたちの声など、他のクラスに与える影響を考え、職員間で配慮することが期待されます。
- ・沐浴室に沐浴設備と温水シャワーの設備があります。3階の屋上にも温水シャワーがあり、使用しない時も定期的に清掃して、清潔に管理されています。
- ・1～3歳児クラスでは、マットや仕切り、サークルを用いるなどして保育室内にコーナーを設けて、遊べるよう工夫しています。保育室は、食事をする場所と睡眠をとる場所の空間を分けて使用しています。朝夕の保育室やランチルーム、「遊び場」など異年齢の交流の場となっています。

### 評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- (1) 子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しているか。
- (2) 子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

- ・3歳未満児は、個別指導計画を作成しています。幼児についても、特に配慮が必要な場合には、個別指導計画を作成をしています。毎月の会議などで個別のケースについて話し合いをしています。子どもの状況に変化がある場合は、その都度クラスで話し合い、柔軟に計画の変更、見直しをしています。トイレトレーニング、離乳食の進め方、食物アレルギーなどの個別の課題は、保護者の意向を確認し、同意を得て計画に反映させています。
- ・保育所児童保育要録を作成し、小学校に送付しています。



- 子どもや家庭の個別の状況や要望は決められた書式に記録しています。入園後の子どもの成長発達について、項目を細かく設定して記録しています。毎月の子どもの姿も記載されており、専用ファイルに保存して保育室の鍵のかかるロッカーに保管し、職員は必要に応じて見ることができます。次年度クラスの新旧担任は、申し送り事項を書面と口頭で引き継ぎ、年度末の会議で全職員が情報を共有しています。

## 評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- (1) 特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。
- (2) 障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3) 虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (4) アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。
- (5) 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

- 特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。
- 会議などで特に配慮を要する子どもの個別のケースについて職員間で話し合い、記録をしています。横浜市主催などの障害児に関する研修に参加したり、北部児童相談所や港北区こども家庭支援課の保健師から得た情報を会議などで報告して情報を共有するとともに、得た知識を保育に活かしています。
- 障害児を受け入れるための環境設備として、園はバリアフリーの構造となっています。横浜市総合リハビリテーションセンターの巡回相談時などで助言や情報が得られる体制をとっています。障害児の特性を考慮した個別指導計画を作成しており、子どもの状況に合わせて個別の対応をしています。子どもたちはクラスの仲間として自然に受け入れています。
- 全職員に虐待の定義等を会議で周知しています。虐待が明白となった場合や疑わしい場合、見守りが必要な場合には、港北区役所子ども家庭支援課の担当保健師や北部児童相談所と連携する体制を整えています。保育士は登園時に子どもの観察をし、保護者には常に声をかけ、話しやすい関係を築くよう努め、職員全員でフォローする体制ができています。
- アレルギー疾患のある子どもについては、かかりつけ医の指示を受け、適切な対応をしています。食物アレルギーのある子どもへの対応は、医師の「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」を提出してもらい、栄養士は保護者と面談を行って連絡を密にしています。除去食を提供する場合は、名前とアレルギーの内容を書いた専用トレイ、食器を用意して、毎食、調理員と複数職員で確認して配膳しています。
- 外国籍など文化の異なる子どもに対しては、日本の文化や生活習慣、食生活を無理強いすることなく、考えの違いを認め尊重しています。子どもたちにはその国の様子や言語など違いがあることを伝えることにより分け隔てなく一緒に遊んでいます。連絡ノートはひらがなやローマ字で記録し、おたよりや必要な書類などは保護者で外国語の得意な方に協力をしてもらっています。

## 評価分類 I-6 苦情解決体制



- (1) 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。
- (2) 要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

- 苦情受付担当者は主任保育士、苦情解決責任者は園長で保育園のしおり（重要事項説明書）に記載し、入園説明会で説明するとともに、園内に掲示し保護者に周知しています。
- 第三者委員を定め、氏名、役職、電話番号などと共に直接申し立てることが出来る事を入園のしおりに掲載し、入園説明会でも保護者に説明、周知しています。玄関に意見箱を設置するとともに、第三者委員の連絡先、港北区役所こども家庭支援課、かながわ福祉サービス運営適正委員会の電話番号を掲示しています。日々の保護者との会話や懇談会、各クラスの保護者代表が参加する運営委員会、行事後のアンケートなどから保護者の要望や苦情を把握し、出来るところから改善するようにしています。
- 要望や苦情は迅速に対応し、ミーティングなどで周知し、対応策についても話し合い、記録しています。

評価分類Ⅱ－1 保育内容〔遊び〕



- (1) 子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。
- (2) 遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。
- (3) 動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。
- (4) 子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。
- (5) 遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。
- (6) 積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。

- 保育室内のおもちゃは、子どもが自分で取り出しやすく片付けもしやすいように箱や棚にイラストや写真を貼り、わかりやすく収納しています。室内のレイアウトに関してはマット・サークル・パーテーション、又は絵本棚やままごとセット等でコーナーを設け、子どもがそれぞれの遊びに集中できる環境を整えています。5歳児保育室には、日本地図・世界地図・世界を知る辞典、刺繍や機織りの用具等が豊富に準備され、子どもたちはこれらのものを使い自分の興味を様々な作品や制作へと進める豊かな知力を得ています。
- 園での活動は、自由遊びと一斉活動をバランスよく組み合わせています。自由遊び時間には、一人でお絵かきや本に向き合ったりけん玉に挑戦したりする子どもや、数人でブロック遊びやままごとを楽しんだりする姿が見られます。5歳児クラスでは手織りや刺繍、縫い物などに取り組む子どもたちがあります。一斉活動では運動遊びやリズム遊び、制作など年齢に応じた取り組みをしています。子どもたちは日々の活動を通して、年下の友だちを助けたり、守るべきルールを覚えたりするなかで友だちと一緒に楽しく遊んでいます。
- 近隣に貸農園を借りています。地元の住民に畑作業を教えてもらい、サツマイモ・ジャガイモ・茄子・玉ねぎなど多種類の野菜を育てています。苗植から畑の手入れ、収穫した作物を給食で食べるまでの体験をしています。
- 子どもたちは、日常的なリトミックやリズム遊びに加え、外部講師による週1回のダンスレッスンの時間を設けています。また、子どもたちの制作に用いる布や毛糸、文具、空き箱やペットボトルやキャップ等を、豊富に用意しています。
- 子ども同士のけんかについては、もめ事が起きるまでの経過を聞き、双方の気持ちを言葉で伝える仲立ちをしています。成長に伴い、子ども同士で話し合い解決が出来るように援助しています。幼児クラスでは、毎日の朝の会とお帰りの会を合同でおこなう他、保育室もワンフロアを低い仕切りで分けたレイアウトです。0・1歳児クラスも同様にお互いの活動の様子がわかる構成です。2歳児クラスはランチルームと隣り合わせで幼児クラスの友だちが毎日、給食を食べに来ます。こうした生活の中で異年齢の交流は日常的です。
- 子どもたちは、天気の良い日には毎日散歩に出かけています。園内の活動においてもリトミックやリズム遊び、巧技台や運動具を使う運動遊び等を積極的に取り入れています。

## 評価分類Ⅱ－１ 保育内容【生活】



- (7) 食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8) 食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9) 子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10) 子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11) 午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12) 排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。
- (13) 長時間にわたる保育のための環境を整え、配慮した保育が行われているか。

- ・年齢ごとの年間食育計画を立て、子どもたちが食に関心を持ち食事を楽しめるように工夫をしています。作物の栽培や給食の当番担当、クッキング等を体験しています。子どもが苦手な食べ物や食べられる量については自分で保育士に伝えて減らしてもらっています。
- ・給食の献立は行事食やご当地メニューなどを組み合わせて作成し、季節感のある豊かな食事作りを心がけています。行事食は、鏡開き、ひな祭り、子どもの日、ハロウィン、クリスマス等に関連した献立、ご当地メニューでは高知県のこうし飯、兵庫県のそばめし、佐賀県のシシリアンライス等、変化に富んだ内容です。食材は出来るだけ国産のものを信頼できる地元の業者から仕入れています。食器は安全性を考慮し強化磁器製で子どもの成長に合わせて数種類の大きさや形のものを用意しています。また、幼児クラスは1階のランチルームに移動して給食を食べています。
- ・子どもの喫食状況は、各クラスから献立表の横に料理毎の食べ具合を記す様式で毎月提出する仕組みがあり、栄養士はこれを元に次回の献立を作成しています。また毎月の職員会議においても栄養士は保育士と話し合い、給食作りに反映しています。
- ・毎月「給食だより」を発行し、子どもの食に関する様々な情報や人気メニューのレシピ等を掲載しています。その日の給食はサンプルを展示しています。また希望する保護者には保育参加の日に給食の試食を用意（材料費負担）し、園の味付けや子どもへの食べさせ方などを見てもらっています。
- ・午睡時の乳幼児突然死症候群の予防対策として、0歳児は5分毎、1歳児は10分毎、2歳児は20分毎の呼吸チェックをおこなっています。また、5歳児クラスはおおむね12月から徐々に午睡をやめ、春の就学に向けた生活リズムに移行しています。
- ・排泄は一人一人の体の発達状況を把握しておむつ替えやトイレへの声掛けなどをおこなっています。トイレトレーニングについては1・2歳児クラスの保護者会で説明すると共に、個々の保護者と連携して進めています。
- ・延長保育の時間帯には、子どもが長い時間の園の生活を落ち着いて過ごせるように配慮しています。昼間と違うおもちゃや遊びで、子どもが飽きずに遊べるように工夫しています。希望に応じて補食又は夕食の提供をしています。

## 評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



- (1) 子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2) 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3) 感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- ・子どもの健康管理に関するマニュアルは、「保健マニュアル」として作成しています。子どもの既往症に関わる注意事項の把握や毎日の健康状態把握のための観察事項を記載しています。食後の歯磨きは2歳児から取り入れ、3歳児まで保育士が仕上げ磨きをおこなっています。4歳児からは歯科健診の際に歯科衛生士による歯磨き指導を実施しています。
- ・子どもの健康診断と歯科健診は年2回、ぎょう虫検査・尿検査（3歳児以上）・視聴覚検査（4歳児）を年1回、身体測定を月1回、実施しています。全ての健診結果は保護者に伝え、結果の記録はファイリングしています。
- ・感染症等に関するマニュアルがあり、登園停止基準のある感染症の基礎知識を記しています。保護者に対しては「入園のしおり」に明記し説明しています。また、感染症の流行が予想される時期前には「ほけんだより」で予防策を記載し注意喚起をしています。園は保育所用アプリを導入しており、保護者へのこうした情報提供がスピーディーにおこなわれる体制が出来ています。

## 評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】



(4) 衛生管理が適切に行われているか。

- ・ 衛生管理に関するマニュアルがあり、保育室とトイレには嘔吐処理セットを備え、手順を記し、感染症等の流行が予想される時期前には、看護師が嘔吐処理の研修をおこなっています。しかし、マニュアル内容について年に1回の見直しはしていません。マニュアルは運営法人で作成し、変更があれば新マニュアルが各園に届く仕組みですが、園内においても毎年マニュアルの読み合わせ等を実施し、衛生管理に関する意識の徹底が望まれます。
- ・ 園内はマニュアルに基づいた清掃がおこなわれ、清潔な状態が保たれています。衛生管理を含めた業務マニュアルはファイリングし、各クラスと事務室に備えてあり、必要な時に確認できます。

## 評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【安全管理】



- (5) 安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。  
(6) 事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。  
(7) 外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・ 安全管理に関するマニュアルがあり、自然災害、園内外の子どもの事故、食中毒、不審者侵入等さまざまな事態を想定した対応手順を記しています。緊急時の保護者への連絡は一斉メール配信のシステムを整えています。
- ・ 子どもの事故やケガについては、軽いものであっても必ず保護者に報告し、事故報告書（医療機関の受診をした場合）と軽度事故報告書（受診までには至らない場合）に記録しています。職員会議では、原因の究明と再発防止策を話し合っています。
- ・ 不審者等の侵入防止対策として、出入口は常に施錠し、保護者はカードキーによる解錠をしています。また、民間警備会社と契約し24時間の防犯体制を整えています。

## 評価分類Ⅱ－３ 人権の尊重



- (1) 保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。  
(2) 必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。  
(3) 個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。  
(4) 性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・ 児童福祉法及び児童憲章を基にした「保育士に求められる倫理」を定めています。常に子どもの立場に立つことを優先することとし、子どもの人格を尊重する園の姿勢としています。子どもの呼び方については、「さん」「くん」「ちゃん」等を用い、呼び捨てやニックネームを用いることは禁じています。
- ・ 子どもが一人で過ごしたい時や、保育士が子どもと一対一で落ちついて話したい場合には、5歳児クラス奥に「休憩コーナー」があります。他にも「遊び場」や空いている時間のランチルーム等を利用しています。
- ・ 個人情報の取り扱い及び守秘義務については運営法人で個人情報保護方針を定め、全職員に周知しています。ホームページやブログ等への子どもの写真掲載については、入園時に保護者に説明し承諾が得られた場合に限り掲載しています。個人情報に関する記録は事務室内で施錠管理し、園内のPCでの情報の扱いについても限られた職員間でパスワードを用いて安全を確保しています。
- ・ 保育中の行事の役割やグループ分けを性別にすることはなく、父親母親の役割を固定的に捉えて話すこともありません。家族の形が一様ではないことの理解を持って対応しています。

## 評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



- (1) 保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。
- (2) 個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。
- (3) 保護者の相談に応じているか。
- (4) 保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。
- (5) 保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。
- (6) 保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

- 園の基本方針は入園時に配付する「入園のしおり」に明記し入園説明会で保護者に説明するほか、入園後の保護者会（保護者懇談会）でも説明しています。また「園評価に関するアンケート」とする保護者アンケートを毎年実施しています。
- 各保護者とは子どもの送迎時に会話を心がけ、連絡帳を基に情報交換をおこなっています。個別面談については、年1回希望者のみ実施していますが、必要や要望に応じ随時おこなっています。
- 保護者からの相談には内容に応じて相談室を準備し、落ち着いて相談が出来るように配慮しています。必要に応じ、園長や主任が助言したり相談の場に同席するなど、適切に対応しています。
- 毎月、園だより・クラスだより・給食だより・ほけんだよりを発行しています。保護者懇談会は年2回実施し、年度始めには園の保育理念やクラスごとの目標等を説明し、年度末には一年間の成長の様子や進級に関する説明をおこなっています。
- 年間の行事予定表をあらかじめ配布し、保護者が予定を立てやすいように考慮しています。保育参加は年に2回、一週間ずつの期間を設定し、保護者の都合の良い日程で受け入れています。
- 5歳児卒園時の茶話会、及び茶話会準備のための会合に場所の提供をし、当日は職員が参加しています。園の運営委員会には2名の保護者代表が参加し、活発に意見交換をしています。また、日常的に畑活動やプールの組み立て、クリスマスのサンタクロース役、絵本の読み聞かせなどに保護者の協力を依頼するなど良好な関係を構築しています。

評価分類Ⅲ－１

地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



- (1) 地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。
- (2) 地域の子育て支援ニーズに応じて保育所の専門性を活かしたサービスを提供しているか。

- ・港北区こども家庭支援課主催の子育て支援イベント「わくわく子育て広場」と、港北区内中部エリア地区の子育て支援イベント「にこにこ広場」に毎年参加しています。どちらも地域の子育て中の親子を対象とした催しで、遊びの提供や育児相談に応じています。会場の親子連れの様子から、直接子育て支援のニーズを把握する機会となっています。これらのイベントに関わる多くの関係機関との実行委員会会議を毎月おこなっています。
- ・地域への子育て支援としては、一時保育を受け入れていますが、育児に関する講習会等は開催していません。看護師や栄養士による子育てに関する情報提供や、ダンスや英語・手先を使う制作等、子育ての専門家による支援の可能性は多くあり、実践的な地域住民との交流の機会が期待されます。

評価分類Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能



- (1) 地域の保護者や子ども等への情報提供や育児相談に応じているか。
- (2) 相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。

- ・地域に向けた園からの案内は、園の玄関ドアや町内会の掲示板に掲示しています。港北区内の育児支援イベントの開催時には会場に園のパンフレットを置いています。育児相談は毎週火曜日に実施しています。
- ・地域住民からの相談に必要と思われる、近隣小学校や保育所、港北区役所子ども家庭支援課、横浜市総合リハビリテーションセンター、横浜市北部児童相談所等の担当者とは日頃からの交流があり、連携の出来る体制があります。

## 評価領域Ⅳ 開かれた運営

### 評価分類Ⅳ－1

#### 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



- (1) 保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。
- (2) 子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。

- ・園の夏祭りや運動会には地域の保護者や子どもを招待し、一時保育の利用者や卒園児等が訪れています。地域の小規模園の子どもたちとの年間を通じた交流や小学生・中学生・高校生の職業体験受け入れを実施しています。
- ・港北区中部エリア地域内の保育園間で交流を持ち、5歳児が年3回ドッジボールやリレーを楽しんでいます。また、子どもたちは近隣の農家の人から畑仕事を教えてもらったり七夕の笹をもらい、子どもたちからは勤労感謝の日に、日頃の感謝を込めてプレゼントを作って届けています。毎年、横浜市大倉山記念館でおこなわれる「こどもフェスティバル」には、子どもたちの作品展示で参加しています。
- ・施設開放や備品の貸し出しについてはおこなっていません。

### 評価分類Ⅳ－2 サービス内容等に関する情報提供



- (1) 将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。
- (2) 利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。

- ・将来の利用者に向けた情報提供は園のホームページやパンフレットがあり、保育の基本方針やサービス内容を載せています。ヨコハマはびねすぽっと（横浜市のホームページ）にも園情報を提供しています。
- ・利用希望者からの問い合わせについては常時対応できる体制があり、見学にも応じています。見学は基本的に希望者の都合に合わせた日時で受け入れていますが、子どもたちの活動の様子を見てもらえる時間帯を勧めています。

### 評価分類Ⅳ－3 ボランティア・実習の受け入れ



- (1) ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。
- (2) 実習生の受け入れを適切に行っているか。

- ・「保育ボランティア・職業体験マニュアル」を作成し、小学生・中学生・高校生の職業体験を受け入れています。ボランティアの活動前には利用者に対する必要な配慮等を説明しています。
- ・きめ細かな内容の実習生受け入れマニュアルを作成し、毎年実習生を受け入れています。実習前にはオリエンテーションで園の方針及び利用者へ配慮すべき事柄等を説明しています。実習の最終日には、実習生、クラス担任、園長、主任で意見交換の機会を設けています。

### 評価分類Ⅴ－１ 職員の人材育成



- (1) 保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。
- (2) 職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。
- (3) 非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。

- ・保育所運営に十分な人材構成であるかチェックし、必要な人材の補充は園長が運営法人に連絡して行っています。運営法人では人材育成計画が策定され、「保育士研修体系」にキャリアステージ毎に求められる能力や役割、身につけるべき専門性等が記載され、職員のキャリアパスを見据えた研修計画が作成されています。職員は、資質向上に向けて毎年「目標設定シート」に目標を定め、達成に向けたプロセス（具体的な実行計画、手段、いつまでに）を記入し、達成度の評価を行い、自己評価を行っています。
- ・年度初めに保育力向上を目指し、食育や危機管理などのテーマで園内研修を計画していましたが、今年度は計画どおり実施されませんでした。また、横浜市や港北区の実地研修、運営法人主催の研修に参加した職員は少なく、非常勤職員も研修に参加していません。実践で使える研修の報告はしていますが、今後は園内研修の実施や研修に参加できるような職員体制を作り、充実した研修報告や研修の見直しなどが十分に行われることが期待されます。
- ・非常勤職員にも業務マニュアルが配布され、必ず正規職員と非常勤職員が組むように配慮しています。園長・主任が非常勤職員の指導担当者となり、自己評価で保育の振り返りを行ったり、定期的に面談するなど資質向上に向けて指導をしています。また意見を言いやすい環境を作り、職員間のコミュニケーションが図られるよう努力しています。今後は非常勤職員もスキルアップにつながるよう日頃から研修に参加できるよう配慮することが望まれます。

### 評価分類Ⅴ－２ 職員の技術の向上



- (1) 職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。
- (2) 保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。
- (3) 保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。

- ・職員は「個別目標設定シート」や「自己評価シート」の書式に記載して自己評価の振り返りを実施しています。保育園としての自己評価は、「保育目標や保育方針を実践しているか」や「保護者支援について」「担任との信頼関係について」「説明責任」「保育内容」などの項目について評価し、計画的に行なっています。また園の自己評価や行事後の保護者の意見等は、そのつど1階廊下に掲示されています。園長は法人の施設長会議や養成校の講師から得た情報を職員会議で提案、話し合い、サービス向上を目指しています。
- ・保育士等一人一人が振り返りを文章化できるよう、年間指導計画、月間指導計画、週案などの指導計画や日誌などの記録は書式が定型化されています。自己評価は保育のねらいが達成されたか記入し、クラスや会議で話し合っ確認しています。保育に関する自己評価は子どもの成長や意欲を大切に、子どもが取り組む様子を重視しています。保育士等一人一人が自己評価を行い、自己評価の振り返りを次の計画に反映させています。
- ・保育士等の自己評価の結果は、各クラスで話し合い職員会議で報告しています。会議などで自己評価を話し合い、園としての課題を明らかにして改善に取り組んでいます。保育園の理念や保育方針に沿って行われた保育園の自己評価は公表しています。



### 評価分類V－3 職員のモチベーションの維持



- (1) 総合的な人事管理が行われているか。
- (2) 本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

- ・ 保育園の理念・基本方針にもとづき人材育成計画が示され、求められるスキル・人物像など人事基準が明確に定められ、職員等に周知されています。非常勤職員の処遇改善など働き方の改善に努めています。評価は職員に園長が面談で示しています。
- ・ 就業規則、運営規定に役割、責任、職務が明文化され、権限移譲と責任を明確化しています。園長は会議や日々の会話から職員の意見を聴収し、業務改善の提案などについて会議などで話し合っています。年に2回の個人面談で園長は職員と要望や意見を話す機会を持ち満足度や意欲を確認しています。

評価分類VI-1 経営における社会的責任



- (1) 保育所として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。
- (2) 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みが行われているか。
- (3) 保育の質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。

- ・職員には就業規則の服務規程を示し、全国養護施設協議会倫理要綱や保育士に求められる倫理、保護者とのよりよい関係について示し、職員の守るべき規範・倫理等を周知しています。園長は他施設での不適切な事案を会議などで職員に周知し、それらの行為を行わないよう啓発しています。経営、運営状況等は公開されていません。
- ・「職務分掌」の中で権限・責任を明確にしています。園の事務、経理、取引等については運営法人が内部監査に入り、財産・経理・事務関係を監査を受けていますが、外部監査による指導を受けていません。今後は経営、運営状況を積極的に公開し、外部監査による指導を受けることが望まれます。
- ・資源分別やペットボトルのキャップを回収するエコキャップ運動に参加したり、廃材で製作したり、廊下には着られなくなった洋服や靴を提供する箱が置いてあり、多くの保護者が提供したり譲り受けたりするなどゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っています。けれども、環境配慮への取り組みを明文化したものはありません。今後は明文化されることが期待されます。

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- (1) 保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。
- (2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。
- (3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

- ・園の玄関や職員休憩室に運営理念、運営方針、保育理念、保育方針、保育目標を掲示し、園長は会議やミーティング、日々の終業時間などに日常的に確認と意識向上に努めています。
- ・保護者からの希望も多い、3階の屋上を夏季のプール以外に使用することができないか、の重要な意思決定にあたりマンションの管理組合との交渉など、園長は、職員や保護者に詳しい状況、経過を説明し、意見交換をしています。
- ・運営法人は、人材育成計画を整備して主任クラスのリーダーを育成する仕組みを持っていますが、現在は副主任が主任代行を務め、個々の職員の業務状況を把握したり、助言できるように努めています。今後はスーパーバイザーの役割を担う職員の配置が期待されます。

評価分類VI-3 効率的な運営



- (1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。
- (2) 保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

- ・園長は、運営法人主催の園長会や港北区子ども家庭支援課や連携園との会議などから保育所運営に影響のある情報収集を収集・分析しています。重要な情報は職員間で共有するため会議で報告し、話し合っています。運営面での改善課題については、保育士の確保をどのようにするのか、園として取り組もうとしています。
- ・運営法人が中期事業戦略を策定し、園としての単年度事業計画を作成していますが、事業計画については、今後、より具体的に中長期計画と連動した形で策定することが期待されます。次代組織運営に備え、新たな仕組みを検討し、幹部職員の育成をしています。運営に関し、養成学校の教員など外部の機関や専門家などの意見を取り入れる努力をしています。

## ◆利用者家族アンケート◆

### 【実施概要】

- 実施期間：平成 30 年 11 月 15 日～11 月 30 日
- 実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、  
評価機関に直接郵送してもらった
- 回収率：配付 72 件、回収 56 件、回収率 77.8%

### 【結果の特徴】

問1の「保育目標・方針」は、83.9%の方が知っており、その93.9%の方が賛同しています。

問2～問7で、「満足」の回答が65%以上の項目は、次のとおりです。

問4 「給食の献立について」・・・・・・73.2%

問4 「基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについて」・・・・・・67.9%

問6 「開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応について」・・・・・・66.1%

そのほか、問5の「お子さんが給食を楽しんでいるか」「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について」、問7の「お子さんが保育園生活を楽しんでいるかについて」、などの項目で、60%以上の満足となっています。

問2～問7で、「不満度」(「不満」+「どちらかといえば不満」)の回答が多かったのは、次のとおりです。

問4 「子どもが戸外遊びを十分しているかについて」・・・・・・28.6%

問6 「送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換について」・・・・・・25%

問6 「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について」・・・・・・17.9%

そのほか、問5の「施設設備について」「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」問6「お子さんに関する重要な情報の連絡体制について」で、14.3%、問2の「保育園での1日の過ごし方についての説明」、問6「保護者からの相談事への対応には」、問7「話しやすい雰囲気、態度であるかについては」で、12.5%となっています。

保育園の総合満足度は、96.4%となっています。(「満足」51.8% 「どちらかといえば満足」44.6%)

自由記述欄では、「丁寧に大切に保育して頂いていると感じます」「よく見て頂いていると感じます」などの意見のほか、「外遊びを増やしてほしい」「担任と話す機会がない」などの意見がありました。

# ヒューマンアカデミー大倉山保育園 利用者家族アンケート集計結果

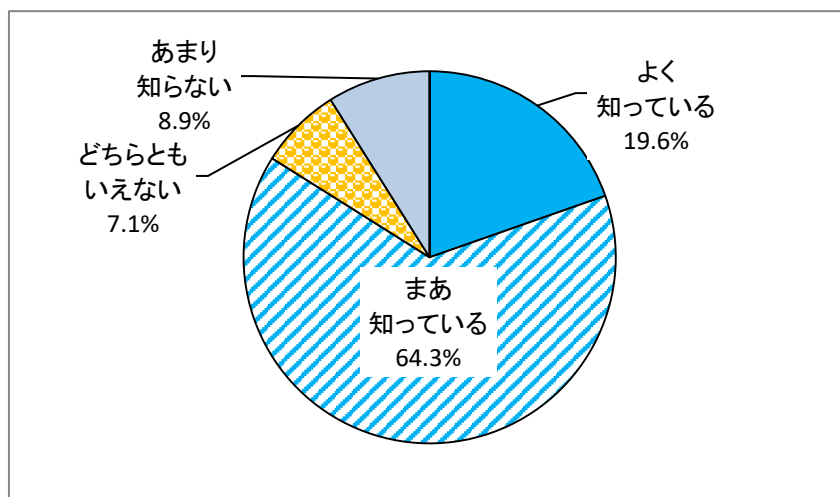
実施期間	平成30年11月15日～11月30日
調査対象	利用者家族
配布世帯数	72件
有効回答数	56件
回収率	77.8%

お子さんのクラス	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答	(人)
	5	12	11	12	10	6	0	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

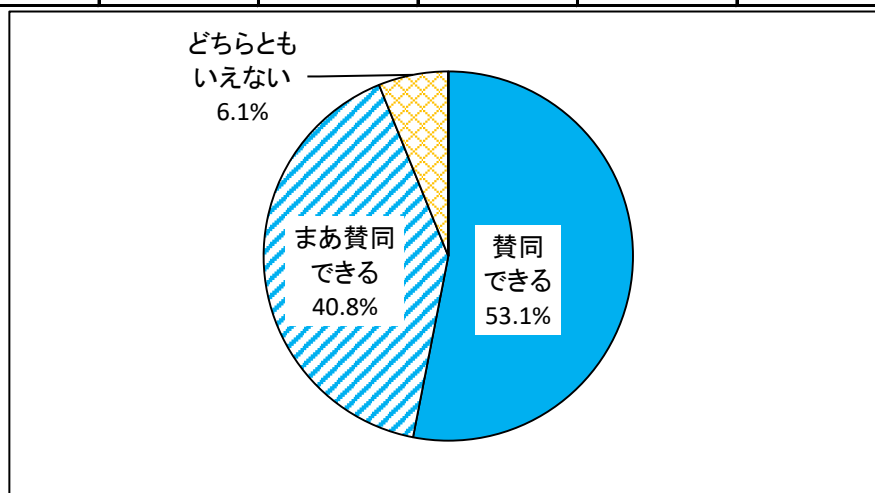
## 問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	19.6	64.3	7.1	8.9	0.0	0.0	



## 1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	(%)
付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	53.1	40.8	6.1	0.0	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	44.6	28.5	0.0	1.8	23.2	1.8	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	35.7	41.1	8.9	0.0	12.5	1.8	
園の目標や方針についての説明には	35.7	48.2	7.1	0.0	5.4	3.6	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	50.0	42.9	3.6	1.8	1.8	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	37.5	48.2	10.7	1.8	1.8	0.0	
費用やきまりに関する説明については	35.7	50.0	3.6	5.4	5.4	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	37.5	55.4	7.1	0.0	0.0	0.0	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	35.7	51.8	5.4	1.8	5.4	0.0	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	55.4	41.1	3.6	0.0	0.0	0.0	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	33.9	37.5	23.2	5.4	0.0	0.0	
園のおもちゃや教材については	51.7	37.5	7.1	0.0	3.6	0.0	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	41.1	46.4	8.9	0.0	3.6	0.0	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	51.8	37.5	10.7	0.0	0.0	0.0	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	35.7	55.4	3.6	0.0	5.4	0.0	

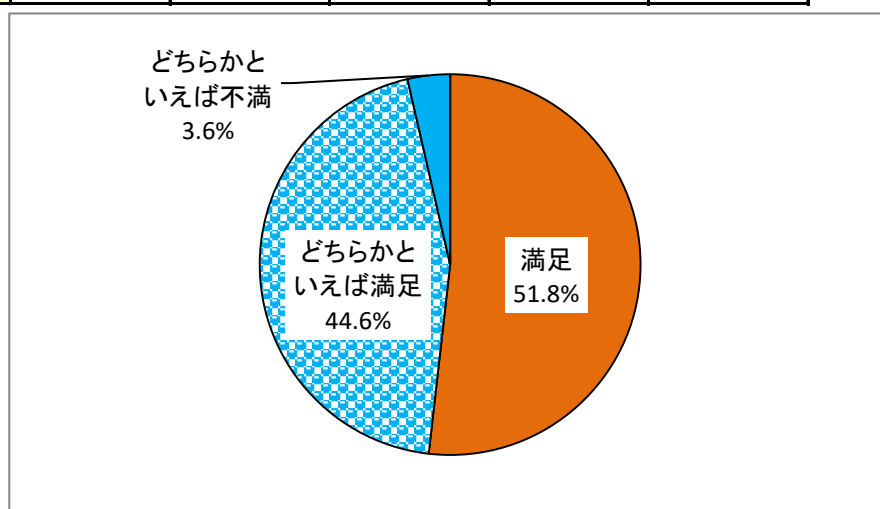
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	73.2	21.4	3.6	0.0	1.8	0.0	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	64.3	30.4	5.4	0.0	0.0	0.0	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	67.9	30.4	0.0	0.0	1.8	0.0	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	57.1	32.1	7.1	0.0	3.6	0.0	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	50.0	26.8	7.1	1.8	14.3	0.0	
お子さんの体調への気配りについては	58.9	39.3	1.8	0.0	0.0	0.0	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	44.6	33.9	16.1	5.4	0.0	0.0	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	39.3	46.4	14.3	0.0	0.0	0.0	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	55.4	39.3	5.4	0.0	0.0	0.0	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	44.6	37.5	12.5	1.8	3.6	0.0	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	64.3	26.8	7.1	0.0	0.0	1.8	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	35.7	46.4	17.9	0.0	0.0	0.0	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	59.0	33.9	5.4	0.0	1.8	0.0	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	53.6	39.3	7.1	0.0	0.0	0.0	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	32.1	42.9	17.9	7.1	0.0	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	37.5	46.4	10.7	3.6	0.0	1.8	
保護者からの相談事への対応には	33.9	50.0	10.7	1.8	3.6	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	66.1	25.0	5.4	0.0	3.6	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	53.6	41.1	5.4	0.0	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	62.5	33.9	3.6	0.0	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	50.0	35.7	0.0	1.7	12.5	0.0	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	50.0	42.9	3.6	3.6	0.0	0.0	
意見や要望への対応については	37.5	48.2	10.7	1.8	1.8	0.0	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	51.8	44.6	3.6	0.0	0.0	



## ◆利用者本人調査◆

### 【実施概要】

■実施日時：平成31年3月7日、3月11日

■実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また、幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

### ●ひよこぐみ（0歳児クラス）

サークル内では保育士が動物や食べ物が登場する小さなペープサートを見せています。保育士の「いないない」の声に子どもたちからは「ばー！」の声とともに小さな手があちこちから伸びて嬉しそうにしています。マットに巧技台が出されると、よちよち歩きの子もたちですが我先に近寄り、階段・坂・トンネルとみんなが遊び方を覚え楽しんでいきます。階段や坂の上り下り、お山からのジャンプ等、転ばないように、友だちとぶつからないように、傍らで保育士が手を添えて見守ります。

給食の時間は、全員一緒にテーブルに向かっています。保育士からニンジン、カボチャと、食材の名前を教えてもらったり、「おいしいね」「サラダもね」などと優しく声掛けをしてもらいながらスプーンと手づかみで一生懸命食べています。

保育室内におむつ替えの台を備えています。「おむつ、ぬぎぬぎできるかな」と保育士から問いかけられ、ズボンを自分で下げようと頑張っている子どももいます。「すごい！がんばれ」の声の応援や、少しずつ手伝ってもらって準備ができました。台の上では保育士と一対一の会話とスキンシップで機嫌よくおむつ替えをしてもらっています。

### ●りすぐみ（1歳児クラス）

子どもたちの大好きな絵本「はらぺこあおむし」をイメージして、青虫を画用紙の上で作っています。丸い色紙を少しずつ重ねて貼りつけていくと、大きな青虫になっていきます。仕上げにクレヨンの色を保育士と一緒に、あか・ちゃいろ・あお…と声に出して手に取って自由に塗っています。保育士は出来上がった作品を見ながら「すてきだね」「いっぱい色つかったね」と声をかけています。

給食時間、席について配膳を待つ子どもたちに、「おてて、ふきふきしてください」と濡らしたタオルが配られています。給食の歌をみんなで歌い「いただきます」の挨拶をして食事が始まります。主食と副菜の両方を食べるように保育士が「パン食べたらおかずも食べてね」と声かけしています。姿勢についても「Oちゃん、足がおかしいね」と足を揃えてもらったり、「おへそ、まっすぐ前にね」と声をかけてもらったりしています。

自分のおむつを持ってトイレに行きます。トイレの中から保育士に「Oちゃん、おいでー」と呼ばれています。自分でズボンを脱いだり手伝ってもらったりして便器に座っています。保育士に「でた！」と嬉しそうに報告している子どももいます。

### ●うさぎぐみ（2歳児クラス）

朝まで降っていた雨がやみ、給食までの短い時間で散歩に出かけます。出かける前のトイレ、上着、帽子、靴下、靴、一つずつの準備がまだ時間のかかる年齢です。誰と手をつないで歩くかについても、それぞれの気持ちが行き違っていて泣いてしまう子どももいます。園の近くにある消防署まで、水たまりを

ジャンプしたり、ジャンプに失敗したりしながら、気分転換ができて機嫌よく歩いていきます。

給食は各テーブルに分かれて、友だち同士でおしゃべりをしながら自分で食べられるようになっていきます。スプーンとフォークを上手に使っています。食べものが器にくっついてスプーンに乗せにくくなると、保育士に声をかけ、食べやすくしてもらいます。食べ終えた子どもたちの「ぴかりん！」の音があちこちから聞こえます。

トイレの前では、保育士が子どもたちを優しく見守っています。トイレトレーニングの進み具合は一人一人違うので、保育士は子どもに合わせて必要な配慮をしています。生活面については、ほとんどのことが自分で出来るようになっていきます。

### ●ばんだぐみ（3歳児クラス） そうぐみ（4歳児クラス） らいおんぐみ（5歳児クラス）

【朝の会】 3～5 歳児クラスの異年齢で縦割りの2グループでおこないます。間近に迫った卒園式に向けて、いつもの朝の挨拶の歌に続いて、「一年生になったら」の歌をみんなで歌いました。訪問日は東日本大震災が発生した日で、朝の会では保育士から「大事な話をします」と8年前に起きた震災の話がありました。子どもたちはしっかり耳を傾け「悲しい、すごく悲しい」と気持ちを伝えています。保育士が「みんなが生まれる前だけど、こんなことがあったことを忘れないで欲しい」と話し聞かせました。

【自由遊び】 朝の時間、子どもたちは思い思いの遊びを楽しんでいます。ブロック遊びや、キッチンセットの前でエプロンをつけて料理するグループ、紙で作った手裏剣を投げて遊ぶグループもいます。テーブルでは、ぬり絵や折り紙も人気です。本格的な刺繍や織物にも取り組んでいます。「世界えじてん」を使って世界の言葉や国旗を調べて本のようにまとめている子どももいます。

【給食】 幼児クラスの保育室は2階にありますが、給食は1階のランチルームに移動して食べます。エプロンとバンダナで身支度を整えた、今日の「当番さん」が給食を配膳します。苦手なものや量が食べきれないと思う子どもは、自分で保育士に「減らしてください」と伝えています。テーブル毎におしゃべりをしながら楽しそうに食べています。お代わりをする子どももいます。

【ダンス4・5歳児】 遊び場（多目的室）で、外部の専門講師による年齢ごとのダンスレッスンの時間です。音楽に合わせて、ステップを踏んだり体の動きを覚えたりしています。少し自信がなさそうにしている子どももいますが、みんな笑顔で楽しんでいます。5歳児は卒園式後に発表する長い一曲を練習しました。

【英語2～5歳児】 外国人の講師と一緒に、アルファベットの絵カードや、簡単な単語で会話や身体の動きを楽しむ英語遊びです。子どもたちは講師の大きな身振りや表情に大喜びしています。

【卒園式の練習4・5歳児】 練習をする「遊び場」には、卒園式の会場のように椅子が並べられています。4歳児が着席して5歳児を迎え、卒業証書の授与、送る歌、感謝の歌などが順に進みます。今までの練習の成果で、卒園する主役の5歳児は、卒業証書をきちんとした姿勢で受け取り、きびきびと向きを変えて会場の中央を堂々と歩きます。誇らしげな表情に少し緊張感がまじっていました。



## ◆ 事業者コメント ◆

5年目となった30年度に会社の方針により、二度目の第三者評価を受審することにしたが、正直なところ、日々余裕のない保育運営を展開するなかで、評価に向けた十分な取り組みの時間を確保していくことができるか、大きな壁になった。主任、副主任を中心に乳児、幼児に分かれて話し合い、受審シートをまとめあげたが、時間的には最低限だったと思う。待機児を削減するために、保育所を増設している現在、園の数が増えれば保育士不足の問題が出てくるのは当然である。当園でも5年の間に、保育士、その他職員の入れ替わりがあり、保育の質を高めたい意識は強く持っていてはなかなか思うようには進めないのが現状であり、子どもや保護者に不安を与えた時期もあったのではないかとと思うと心が痛む。そのような中でもハード面の環境を変えることは不可能であるが、ソフト面、つまり人的な環境は努力次第で変えられるし、改善できることがあると前向きに考え運営をすすめている。この5年間、園の理念として掲げる自立の芽を育てるための方針として、受け止める・支える・待つ3つのポイントを職員に周知・徹底してきた。と、同時に園全体に浸透できることを願ってきた。少しずつ理念や方針を意識する姿が見えてきている現状において、私が感じることは、保育者が子どもの思いを受け止め、支え、待つという方針そのものを、私自身にも保育者、保護者の思いを受け止め、支え、待つことが望まれているということに気付いた。3月、退職するにあたり、ある保護者の方から、園長先生の保育に対する思い、行事の時に話して下さる一言一言が心に響き、お話を聞くことがとても楽しみでした。子ども以上に私たち大人を育てて頂き、本当にありがとうございました、という言葉を受け理念を伝え続けた事に対して、報われた瞬間でもありました。保育に関しては、幼児リーダーの存在である保育士を筆頭に、子どもが「やってみよう、やってみたい、やったらできた」と感じて遊び込める環境づくりと、援助が実をむすびつつある現在、乳児担当の保育者にも刺激となっている点はヒューマン大倉山の保育に大きな財産となってきている点ではないかと思う。わかりやすく、子どもに響くように伝えること、楽しいと思える遊びを十分用意することなど、どの保育者もクラスさえよければ、ではなく、次につながる保育の展開を心がけることなど、小さな事だが取り組んでいる姿を見て安堵している。今後も全員前向きな意識を大切に継続して行ってほしいと願う。配置上、研修参加や、地域交流などは不十分であったが、評価結果はどうあれ、大倉山の職員は、子どもを第一に考え、本気で日々がんばり通していることに対して、私としては、十分な評価をしたいと思います。いろいろご指導いただき、ありがとうございました。





---

## 福祉サービス第三者評価 評価機関

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 17 番地 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

URL : [www.yresearch-center.jp/](http://www.yresearch-center.jp/) E-mail : [top@yresearch-center.jp](mailto:top@yresearch-center.jp)



かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

川崎市福祉サービス第三者評価認証機関 第 14 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

東京都福祉サービス第三者評価認証評価機関 認証番号 機構15-232

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 2510-002-02

---